

どういふ論文を読むべきか

2014年5月26日

佐々木良一

情報メディア学特別演習で調査対象文献リストを提出いただきました。基本的に皆様の提案した論文を調査すればよいと思います。ただし、下記のような観点から見直し、追加削除すべきものがあれば修正していただいても結構です。

論文を読むのは良い研究を行い、別紙1のようによい論文を書き、論文誌に採択されるためです。このためには良い研究のアイデアを得るとともに関連研究の動向に言及するために論文を読む必要があります。

1. 良い研究をするために

(1) 他人の論文から良いアイデアを得ることは思いのほか少ないかもしれません。むしろ、企業の人との会話から明確になっていない大切なニーズが明らかになったり、別の分野の人の本から面白いアプローチが明確になることの方が多いと思います。

(2) ただ、世界のトップレベルの研究者のアプローチには、たまにエポックメイキングな研究で着眼点がすごいなあという論文が出てくる場合があります。自分の近い分野でこのような論文がある場合は思想を学びながらぜひ読んでみるべきです。これはいくら古い論文でもOKです。

2. 研究動向を把握するために

(1) それぞれの分野で、似た研究をやっている人が多い場合はサーベイペーパーがあります。そのような場合はそのサーベイペーパーを読み引用すると、比較的簡単に研究動向が記述できるので、そのような論文は調べてみるべきだと思います。その場合でも、最近の論文を見ておく必要があります。

(2) 似た研究をやっている人が多い場合で、サーベイペーパーがない場合や古いものしかない場合は、みんながよく知っている論文と、最近の論文は読んでおく必要があります。

(3) 似た研究をやっている人が多い場合は先行研究とどこが違うかを明確にしながらかくする必要があります。

(4) 似た研究をやっている人が少ない場合は、分野に絞って似た論文を探し、それらが自分と同じアプローチをやっていないことを明確にするために読んでいけばよいと思います。また、分野は違うが似たアプローチの論文がないか探してみる努力も必要でしょう。

いずれにしても、自分の読む論文がどういう位置づけのものかはっきりさせながら読んで聞く必要があります。

以上

2014年3月3日

佐々木良一

1. 題名について

研究の目的と手段とフェーズが分かるようにしたうえでできるだけ短い題名にすること。

2. 共著者について

学会発表などでは、研究のアイデアを出してくれた人等を共著者にしないでよいかや形式に流れて多くなりすぎてないかやをよく考え、必要十分な数にすること。

3. 良い論文にするための基本

(1) 良い論文にするためには研究テーマの決め方や進め方をちゃんとやっておかなければならない。研究テーマの決め方や進め方は「研究の勘所」を参照してほしい。

(2) 論文文化を想定してそこであまりうまく書けるようにするためにはどうするかを考えながら研究を進めると、研究が効率よく進む。

(3) 論文として認められるものの判断基準は以下の3つである。

(a) 新規性

(b) 有用性(役に立つか)

(c) 明瞭性や精確(精密で正確)であるか

(4) 論文を書くにあたっては読者を想定し、その読者が理解し、興味深い研究だと思ってもらえるように書く。思いのほか自分の言いたいことは伝わらないと知る必要がある。見直しの際に誤解されないかチェックし修正を図ること。

(5) 最初に段落とその表題を設定し、それぞれの章を埋めていく。慣れないうちは、2章以降から書き始めてもよい。

(6) とりあえず書いておいて、それから見直しをしてもよい。最低3回は見直すこと。そのためには早めに取り掛からなくてはならない。

4. 「あらまし」について

(1) 「はじめに」と「終りに」を書いた後、それらを組み合わせて要約するとよい。(はじめにだけを要約している例が多い)

(2) あらましには通常引用をしない。

(3) 段落を変えないことが多い。

- (4) あまりにも一般的なことはかかない
- (5) 実験結果や明らかになったことの結果の要約も書く。

5. 「はじめに」に関して

- (1) ここは力を入れて書く。国際講演の査読の場合数が多くなると「はじめに」と「終りに」と引用文献しか見ず採否を決定する場合もある。
- (2) 自分の研究の背景と必要性を明確にしたうえで研究の目的とアイディアのポイントを書く。必要十分に書き、研究に関係ないことや、あまりにも一般的なことは書かない。
- (3) 類似研究の動向についてかならず触れる。それらと比べて何が新しく、どう役に立つかを示さなければならない。もし、多くなりすぎる場合は別に章を立てる。

6. 本文について

- (1) 目的を達成するために実施したこと、その結果、目標に対する結果の考察をわかりやすく書くこと。
- (2) 図は下に題目を書き、表は上に書く。
- (3) 図表だけ書いて本文中で引用しないというのはあってはならない。
- (4) 他人の独自の表現については基本的に引用すべきである。
- (5) 他人の仕事と、自分の仕事を明確に区別する。先輩の仕事は卒論の際には他人の仕事として書くべきだが、学会発表などでは共著なってもらい、自分の仕事として書くこともできる。

7. 終りに

研究結果を要約するとともに、今後の課題を書く。

8. 引用文献

- (1) 文献欄は、読者がその文献を直ちに探せるための情報を記述するのが基準である。
- (2) 具体的な記述法はそれぞれの学会のやり方に合わせる。
- (3) 文献欄に文献を書きおいて、文中で引用しないというのは普通行わない。(引用文献と参考文献に分け、前者のみ文中で引用するというのも文系ではあるが、通常理系にはない。)

以上